教育かわら版
こんにちは教育委員会です ふたたび

No.１５８
令和３年８月４日発行
今金町教育委員会の会
文責：教育長　中山秀悦

一昨日少し降った雨の影響でしょうか。役所の窓から見える遊楽部岳が白くかすんでいます。今日も最高気温予想は３２℃。特産の今金男爵の収穫時期が近づいてきます。昼夜の寒暖差が甘みに繋がる農作物。生産者の方々にとってはもう少し雨が欲しいというところかと。どうぞ豊作に繋がりますように。



今号のエッセイはいつもの教育委員ではありませんが、私の敬愛する町指導主事によるものです。氏は元学校長。全日本中学校長会や北海道中学校長会の役員もされた幅広い視野と経験の持ち主です。

実は私とは同期。新卒時代も近くの学校で出会い、その後、管内の教頭会や校長会事務局でも一緒だった友人でもあります。お互い叩けば埃の出る事まで知っているのかもしれませんが･･･。

リレーエッセイ
『　啐啄同時　』

今金町教育委員会指導主事　　塩　﨑　弘　明

教育委員会　指導主事の塩﨑弘明と申します。３月まで教員でしたので学校便りやその他諸々の刊行物に思いなどを記していましたが、元来文書を書くのは苦手で今回もなかなか前へ進まず時間だけが過ぎてしまいました。どうしようかと考え、以前学校便りに記したことを皆さんにも読んでもらえればと思い紹介します。

（前略）

「啐啄同時（そったくどうじ）」という言葉をご存知だろうか？

数年前のことです。札幌からの帰り、ラジオに耳を傾けていると「自分が大人だと自覚したのはいつ？」「どんな時に自分が大人を自覚した？」そんなテーマの番組に引きつけられた。論者は「鮨屋でカウンターに座り、好みで注文をした時だね。『俺も大人になったなあ～』と実感したのさ。」と語っていた。なるほどと思った。もう一つ「高校生の時、母親が 100 万円の札束を二つ目の前に置いて『お前が大人になるために準備したお金だ。このお金を自分で管理して、好きな進路を選びなさい。』と言われビックリしてしまって…。」とも語っていた。60 歳代後半の論者だから、50 年以上も前の話。豪快な母親もいるのだなあと感心した。

そんなことに聞き入りながら、私自身はいつ大人を自覚？したのだろうと考えた。たどり着いたのは、中学３年の時、腕時計を親から贈ってもらった時。「自分自身で時間を管理しなければならない。」と思った気がする。（気がするだけかもしれない。）

大人になる。大人を自覚する。それは、「責任」を自分で背負うことなのだろう。鮨屋で好み

で注文するからには『時価』の物を注文し、いくら請求されるかわからない額を自分が払うことを自覚しなければならない。進学の 200 万円を自分で貯金し、計算し管理するのも年齢に不相応の重大な責任が生まれた。もしかすると、私の「腕時計」にも時間の管理を子どもに任せるという親の意志があったかもしれない。いずれにしても、ここからわかるのは、大人になるには、自分一人だけで大人になるのではないということだ。ラジオの論者の母親のように「大人にしてくれた人」が必ずいるはずだ。そして、多くの場合、それは自分の『親』に違いない。

禅の教えの四字熟語に「啐啄同時（そったくどうじ）」という言葉がある。「そつ」は鳥の雛が内側からたまごのカラをつつくこと。「たく」は親鳥が外側からカラをつつくことを意味し、それが同時でないと健やかに雛が孵（かえ）らないというおしえである。

雛は、自分のくちばしでカラをつつき生まれてくる。少しずつ時間をかけ自分のペースでカラを割っていく。親鳥は、その雛のペースに合わせ外側からカラをつつき手伝う。

子どもが大人になるとき、親鳥が雛のペースに合わせるように、その子にあった責任を委ねる絶妙なタイミングがあるのだ。皆さんは、どんなタイミングでどんな責任を与え「大人の自覚」を促しますか？また、促されましたか？（後略）





さて、どう感じたでしょうか？
自分や我が子に立場を置き換えしみじみしてもらえれば幸いです。

人間力の育成として

オリンピックでもまた SNS 上の言葉が話題になっています。

肯定派・否定派、読む側、読まされている側、踊らされている人・踊らせている人。様々な立ち位置にしろ、皆 SNS 世代になっているのは事実だと思います。私も。

その中で、いわゆる作文を苦にする人でも、SNS ならという人がいるのも事実でしょう。

ただ言えるのは、作文は作者のバックグラウンドも明かされ、書き手としての責任も自覚できる一方で、SNS はその匿名性ももって無責任さや、発信者の人間性と合致しない場合があることが否定できないということです。

うちの町はだからこそ、『読書と作文のまち』プロジェクトを推進しています。人は文章を書くことで自分を見つめます。読書は人の心に、脳に、振り返る落ち着きと冷静さをもたらします。

負けない。頑張りぬこう!

おかげさまで今金町はワクチン接種が進んできています。COVID-19 への対応策として、耐え忍ぶだけでなく、今有効な策はまずワクチンの２回接種を進めること。今金町もそう考えています。

国内すべてでワクチン接種が進めば、人々の空気感は変わっていくだろうと、感染の激しい拡大を防ぐために今最も有効な手段がワクチン接種、そして基本的にマスクの着用だと考えるべきなのだと、私自身も押さえています。